

地方自治ここにあり 首長インタビュー

津波が来ない安全安心な町づくり

～災害時の後方支援の拠点をめざして～



奥田誠 上富田町長

上富田町 奥田 誠 町長

上富田町で今年2月、41年ぶりの町長選挙が行われ、新人の奥田誠氏が初当選を果たしました。災害に強い町・安全安心して暮らせるまちづくりをめざす奥田町長に町政担当の抱負を聞きました。インタビューは4月2日町長室にて当研究所の鈴木裕範理事長が行いました。

立候補を決意させたものは

鈴木：奥田さんに町長選への立候補を決意させたものは、何だったんでしょうか。

町長：僕は町会議員20年していたんですけども、そのときから小出町長が引退したら、自分も町長に出馬してみたいという野望はあったんですよ。

鈴木：大志をお持ちになりながら町会議員として地方自治に関わり、いつかは町政を運営してみたいという

強いお気持ちがあったということですね。

町長：はい。

小出町政の最大の業績は
財政再建と
まちづくりの並立

鈴木：選挙戦では小出町政の継承を訴えられました。奥田町長は、小出町政をどのように評価されますか。

町長：僕と小出さんは平成10年に同じ1期生で、20年間やってきました。僕も小出町政をいろいろバックアップしながら、やってきました。小出町政が始まったころの一般会計の借金総額が約84億円あったんです。それがこの20年間の間で、スポーツセンターの整備事業から始まって、一番古い時代に朝来小学校の耐震化の建て替え事業、なのはな保育所とはるかぜ保育所

の統合事業、昨年できたスポーツサロンの建築、この4月から始まる学校給食センター、そういう新規事業を次々に展開しながら、この20年間で借金を20億円減らしてきてるんですね。そういうところが、一番評価しているところなんです。

鈴木：財政再建を図りながら新しい事業を展開し、そのなかで、この町のカラーとしてつくりだしたのが、確かにスポーツの町だったと思います。

教育というものに対して、中学生による少年の主張のような取り組みを10数年前ぐらいから行われたりして、他の自治体にはないユニークな取り組みだったと思います。

鈴木：今度の選挙は、他のお二人の候補との激しい選挙戦でした。他の2人の得票を合わせると、奥田町長の得票を1200票近く上回るわけです。これは前町長からの転換を求めたものとも読めるわけですが、どんなふうにお考えでしょう。

町長：小出町政を継承する

目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー 津波が来ない安全安心な町づくり 上富田町 奥田 誠町長……	1
食と農を考える 和歌山大学名誉教授 大西 敏夫 ……	6
和歌山市民図書館はまともな図書館であってほしい ～問題だらけの指定管理～ 図書館問題研究会大阪支部事務局長 脇谷 邦子 ……	9

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2018年6月号



朝来に新設された給食センター

ということでも訴えてきました。選挙で投票率が約60パーセントぐらいいしかなかつた中で、3214票を獲得できたというのは、小出さんへの批判じゃなしに、投票された方の41パーセントが僕の得票数なんです。選挙戦で戦ってきた2人が小出町政に批判どうのこうの

というのは思っていないです。鈴木：つまりオール上富田でやっていく方向性は見いだせるということですね。町長：はい。選挙は選挙でそのときは戦いなんです。

安全安心な町づくりは津波が来ない町

鈴木：大きな転換点の町政担当だと思っんですけども、奥田町長の基本的な政治姿勢、そして町長が描く向こう10年から20年先の上富田町の姿をどのようにお考えか、お聞かせください。町長：2025年問題の高齢化率は、今のビジョンで行けば約30パーセントぐらいですかね。2040年代で38パーセントぐらいで、よそに比べれば低いぐらいだと思っってます。人口減少問題は、2060年で、方策しなければ約1万1000人から1万人ぐらいいまで下がるだろうと言われているんですけど、地方創生事業の中の人口減少対策について、僕が考えてるのは、津波の来ない町というのを

つとPRしていったって、移住定住促進事業（それも地方創生事業の中に入る）をしながら、企業用地をもうちよっと増やして企業を誘致して雇用の創出を図ることによって、働く場所ができれば住んでもらえるというビジョンを強調していききたいと思ってるんです。

鈴木：なるほど。地方創生の総合戦略で、私が感じたのは、基本目標の4の中で、「時代に合った地域をつくり、安全・安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」とある点です。安心して避難できるような体制を整え、津波が来ない町ということを前面に出していってらどうかというお話ですね。町長：そうですね。マニフェストでも出してるんですけども、防災減災対策については、地域ネットワークのまちづくりということで、東日本大震災が起こる前から後方支援拠点構想というのを私は考えてるんです。後方支援拠点構想というのは、岩手県の遠野市を中心

に三陸地域で地震とか津波が来たときに、いろんな対応をしていかなければならないということで、遠野市から宮古市とか9市町村が体制をつくって、自衛隊から県警、救急、消防などすべての様々な訓練をやってたらいいんですよ。津波の来ない町ということで、上富田スポーツセンターを中心にして、いろんな訓練をやっていけば、後方支援という形で田辺周辺広域市町村圏組合で、上富田町が拠点になれば、中心的に実現したいと思っっています。

鈴木：みなべ以南すさまじく支援するような仕組みができるんじゃないか。その要の役割を担いたい。町長：そうですね。鈴木：田辺周辺の広域圏市町村組合に具体的に提案されてるんですか。町長：いや、まだ市町村圏組合の中では提案してないんですけど、やっていきたいなと思っっているんです。鈴木：是非その一歩が踏み出されることを期待したいと思っます。もう一つ挙げ

られたのは、安全安心な町だからそこに住もうと人々が考える町をつくりたいということですよ。企業誘致を挙げられたのは、企業が活動し、活力がある町であることが大事だというお話かと思っんです。町長：両新田ということとろを造成したんですけど、（小出前町長がやった）この土地も完売しています。今は、中田食品さんの梅の廃液のバイオマスの工場もできてますし、マジネットという会社も新しく本格的に大きくしてもらってるし、田辺市の芳養にある日赤も津波が来る可能性があるってことで、こちらへ移転してくれる。リース屋も日産も来てもらって、いろんな企業に来てもらってるんです。

鈴木：さらに企業が進出できるような用地はあるんですか。町長：この3月議会で提案したんですが、これも生馬地区になるんです。それと救馬溪観音の向こうに、会社が直接、山を買



朝来にある林業会社の原木置場

って造成して、木質バイオマスの工場を建ててもらおうようになったんです。
鈴木：上富田でも木質バイオマスを扱う企業が進出してきてるのですか。
町長：今の林業であれば、間伐しても引き取ってもらえるところもない。元々は田辺市が始めるということ

でやってたんですけど、田辺市の方でストップかけられて、近くでないかということ、私と小出前町長が上富田町だったらこの辺がありますよって提案して進出してくることになりました。森林組合長さんともこれができたら間伐をしたのもここへ持つてきたら幾らかで買ってもらえるし、これからの林業の発展になつてくると話をしました。今、和歌山県の農業林業大がこちらで林業の従事者の育成もやっていて、林業がこれからは活性化していくために僕も力を入れていきたいと思ってるんです。

子どもの医療費拡充

重点政策に

鈴木：上富田町は人口がほかの地域に比べると増えていきます。増える要因は、この周辺の皆さんの魅力のある地域になつてるといふことですか。
町長：そうなんです。東日本大震災のあと、高台へということが言われまして、うちの場合、南紀の台の横にあつたゴルフ場を宅地造成した団地に田辺市、そして白浜町、すさみ町、近隣の方がどつと集まつてきて、地価が上富田町の南紀の台が一番上がつてきてるんです。それでも坪単価にすれば12、3万ぐらいなんで、田辺市周辺の単価を思えばまだ安い。すさみや田辺まで仕事に通える。立地的には一番いいところだと思つたので、津波の来ない町の高台が一番いいところにあるとPRしていけば、まだまだこれからも来てもらえる。それと、この4年間で、子どもの医療費の無料化を中学卒業までやっていく。一度には、すぐ中学生までというのには難しいので、段階的にまずは低所得者層と特定疾患、疾病を持つてる子どもたちを先にやって、そのあと小学生まで、そのあと中学生までという形でやっていく。県内で一番最後なんですけども、給食センターが今日から稼働し始めてるんで、そういうところも子育て世代の方にもつ

と来てもらい、人口の減少を止めていきたい。
鈴木：子どもの医療費無料化の問題は、奥田町政1期目の4年間の中で、段階的に中学生まで実施していくということですね。
町長：そうです。
鈴木：そして、今年度からは、低所得者層と特定疾患を持つた、子どもたちを対象にスタートすると。
町長：2月になつて、アトピー性皮膚炎とかいろいろな病気でできないかという話をしたんですけど、ぜんそくとか皮膚炎であれば、重度でないとか特定疾患にならないというので、それだけなら低所得層か特定疾患の子どもが現状でどれぐらいいて、どれぐらいの予算が要るか調べさせてるんで、その分で予算が付けば、今年度中にでもやっていきたいなつていうふうには思っています。
鈴木：はい。
町長：今回、稼働する給食センターが全部で12億円ぐらいかかつてるんですよ。それで国の補助金が1億5

000万円ぐらいしかなく、あと全部町の持ち出しなんです。8億円ぐらい起債借りて、3年後ぐらいから毎年4000万円ぐらい戻していかなきゃいけない。それと維持管理をしていくのに約7000万円かかるんですよ。1年間で7000万円と、4000万円が今度、別途に必要なつてくるんで、その辺の財源を確保しながら、ちょっと医療費の無料化もやっていかんとあかんなので、その辺のちよつと厳しさがある。上富田町は人口が増える町ということもあるんで、過疎債が借りれないんですよ。
鈴木：子どもの医療費の無料化は、小出町政が積み残した宿題でもあるかと思ひますので、奥田町長のもとでは、是非解決していききたいというお考えですね。
小出町政が進めてきたスポーツと観光とか、スポーツと教育を結び付けるまちづくりについてはどんなふうにお考えなんですか。
町長：そうですね、実際上富田町の中で一番できて良



上富田スポーツセンター

くなつてるのがスポーツセンターの周辺の整備、今の給食センターも災害時にもし危なかつたら高台へということ、スポーツセンターの入り口の前に給食センターも建ててるので、もし何かあった場合は、スポーツセンターを中心にした後方支援のときでも、給食セ

ンターで給食をつくって提供できるところも、小出前町長は考えて高台へつくったということです。その横に去年9月にスポーツサロンができたんですよ。元々は上富田町内の方が健康維持増進してもらいたいということをつくったんですけども、今は、会員制で年会費を払って来てもらってる状況です。1日3時間で2000円か3000円です。会員は今、町内と町外で半分ずつぐらいで、全部で500名ぐらいです。施設には県下では有数のスポーツ器具があるんですよ。プロが使ってもいいような器具が備わってるんです。この間も、7人制のラグビーの全日本のチームが合宿に来て、これはプロが使ってもいいぐらいの器具だと言ってもらったんです。ウエルネスツーリズム協会という旅行業を持った一般社団法人が、スポーツセンターも全部、指定管理してもらおうことになって、そこがワンストップで、施設の予約から宿泊施設の予約

も、お弁当も全部やる。3月26日に東大阪市から花園ラグビー場のラグビーのボールを寄贈してもらったんですよ。そのとき高校生の花園の名門校38チームがそろって、一番遠いところでは九州の奄美大島からも参加してもらったんです。ウエルネスを通じて、スポーツ観光と合宿をセットで今売り出してきています。鈴木：かなり進んだスポーツジム機能を持った施設ですね。町長：そうなんです。鈴木：これもまた交流人口の拡大につながってくるお話ですからね。来年はラグビーのワールドカップが開催されますし。

場のある東大阪市が、上富田町へ寄贈してくれたんで、キャンプ地として大きく前進した感じがします。上富田町も来年のワールドカップの外国のいろんなところに呼びかけているところなんです。子どもの権利条例 制定をめざす

鈴木：ところで高齢者福祉の問題にどう対応していくお考えでしょうか。町長：高齢者福祉は、今の介護保険の関係もありますし、後期高齢者の医療費の問題もあるんですけども、介護保険料が今回、一番上がってしまったんです。その原因は、第5期と6期の値上げの幅を少なくして、介護保険の基金の方で借金をしてしまつたんで、その返済額が今回上乘せになってきたんですよ。なぜ介護保険料が高くなってきているかと言うと、上富田町内に事業所が多いんですよ。そこで高齢者の方がデイサービスとか、訪問介護サービ

スとか、使いやすいところがあるので、利用者が多い分高くなってきているということになるんです。鈴木：痛しかゆしの問題があるんですね。町長：逆に言えば安心して暮らせる町じゃないかな。今年は大分上がったんですが、2020年、2025年のことを考えていけば、ほとんど県内同じぐらいには収まってくると思います。障害者の方たちもいろんな福祉計画とか障害者計画を立ち上げていってるので、それと併せてスポーツの町上富田というところをPRしていきたい。それと教育の問題で、僕が思ってるのは、小出前町長がつくってくれた児童表彰条例(子どもを褒めて育てて、その子どもが6年生卒業のときに表彰して銅メダルを渡す。銅メダルが金メダルになるぐらい磨いて頑張っていけという条例)があるんですけども、今回(県内どこもしてない)子どもの権利に関する条例と



鳳凰に似ている町の地形

いうのを制定したいなど。それは今、いじめとかいろんな問題が発生してる中で、子ども同士が、私だけの権利じゃないよ、ほかの子どもにも権利が一緒にあるんだよと。学校で問題が起こった場合でも各保護者の方もみんな一緒になって考えていこうよと、町が全体をそれを保障していこうとというような条例なんですよ。

それもマニフェストで言ってきたんで、教育委員会には、いろんな条例をいっぺん模索してやろうやないかって話は、もう進めてるんです。

鈴木：子どもの権利に関する条例、和歌山県内のほかの自治体にはないんですね。

町長：和歌山県には虐待防止条例はあるんですけど、子どもの権利に関する条例というのはいないんです。すぐにも手をかけていきたいんです。

鈴木：分かりました。町長、まだ言い切れていないところがあればお話しください。

町長：交流人口を増やすというところで、熱中小学校というのが5月19日に上富田町内で開校しました。全国10か所で、近畿圏内では初めての取り組みになります。これは18歳から年齢上限は問わないんですけども、大人の小学校になるんです。

いろんな事業展開をする方とか、自分の人材育成を伸ばしたい方とかが入校してもらって勉強してもらおう。町内だけじゃなしに、県内

県外、誰でも構わないんですよ。講師の先生も、多くの企業というか会社の社長さんが登録されてて、そこから何人かが上富田町へ入ってくれて、前期と後期の12か月分、前期6か月が1期生で、後期6か月が2期生という形でいろんな方が入ってらっしゃる交流人口を増やしていきたいと思えます。

鈴木：いわば大人の学びの学校ですね。

町長：元々が秋田県の高畠町だったんかな、水谷豊が『熱中時代』というテレビでロケをやったところが、『熱中時代』の水谷豊の学校ということで、熱中小学校が発祥地なんです。

鈴木：いまのお話は、総合戦略の基本目標の5のところ、

「町民全体の知恵と力でもって、これからの上富田をつくる」と「みんなが掲げられているわけなんですけども、このところにも即したような事業の1つ

になっていくのかなというふうにお聞きしました。

上富田町は「鳳凰の町」

鈴木：最後に向こう4年間でこれだけはという奥田町政のテーマをお聞かせください。

町長：先ほど言ったように、医療費の無料化から始めて、小学生の子どもたちの権利に関する条例もやっていきたいし、それと熱中小学校、スポーツのウエルネスツーリズム、そして、スポーツセンターが平日の昼間が閑散期になってるので、昼間のスポーツセンターの活用ができないかということ、

で、僕自身、ドローンを操縦できるんで、そのドローンを活用した何かができるかなとか、ドローンレースとかドローンの大会とかやっていけたら、交流人口の増員という形で、木曜日の午前中来てもらってお昼から遊んで、金曜日のお昼まで遊んで金曜日の夕方帰るとか。そういう新たな交流の人口を増やせていけたら

なって考えてるんです。

鈴木：アイデアも活かした

町政にしていきたいということですね。最後の質問です。奥田町長が上富田町で一番好きなのは。

町長：私は今、町を挙げてPRしていきたいというのが、この4月14日に坂本冬美さんが歌碑の除幕式に来てくれて。酒井先生が、プロデュースしてくれた上富田町の歌を冬美さんが歌ってくれました。町のテーマソングが、『ただいま故郷』という上富田町の歌を喜多條忠先生と上富田町の方が共同の歌詞をつくってくれて、『鳳凰の町』で売ってるんです。鳳凰というのは、冬美さんのスタッフの方がこの写真（上富田町全体の航空写真）を見たときに、羽根を広げて、鳳凰が降りてきてるようだねっていうことから、『鳳凰の町』っていうタイトルになったんです。そういうのを上富田町の観光のスポットにしていきたいんですよ。これからのメインにしたいと思います。

鈴木：本日は、お忙しい中ありがとうございました。